

# 「実行元年」と

## 町の産業振興は

### 黒潮印と広域アクション

#### プランで／町長



おおにし しょういち 議員  
大西 章一

#### 問

知事は各施策に対し本年を「実行元年」と称し、県政浮揚のため積極的に努力している。中でも一次産業と観光産業においては、強い意欲と熱意を示している。知事は高知県の一次産業を食糧の生産基地と位置付け、食の安全安心、地産地消、地産外商を含む生産販売や食品加工等、付加価値の高い食料品や輸出を含む外貨の稼げる食料産業と生産地を育成するとしている。観光産業については、幡多

地域を全国一の観光産業推進地域とし、観光資源の開発や観光ビジネスの創出、体験滞在型の宿泊メニユーの充実を図り、観光産業を育成するとしている。

#### 答

そこで町長は、知事の「実行元年」と称する積極策に対しどう認識し、どう対応するか考えを問う。

下村正直 町長  
松田 二 産業振興課長

県の一次産業においては今まで農林漁業を重視するとしながらも、結果としては衰退してきた。

また、一部工業化を目指し工科大を誘致したもの、根本的な解決には至らない状況の中で、一次産業と観光産業

を主に県と地域が連携をとり、県政浮揚のため取り組もうとしていると認識している。県は一次産業を将来の食糧生産基地と位置付け、環境保全型農業の推進や食の安全安心において、アドバイザー制度を導入し生産から加工、販売に至るまで、産業振興計画の中に戦力として盛り込んでいる。

そこで本町においてもアドバイザー制度を積極的に取り入れ、付加価値の高い農林水産加工品等を開発し、経営組織の充実や工場建設のため、二十一年より三カ年計画で、産業振興推進総合補助金事業に基づき実施計画をしている。

また、黒潮印認証制度を設け、黒潮町の天然素材を利用した商品や、開発された特産品を黒潮印の商品として束ね販売戦略に乗せたいと思っている。

観光産業についても県は幡多地域に強い意欲を持っている。しかし今までの幡多地域では推進団体が数多くあり、細部についての統一は難しくても、幡多広域の観光窓口としては一つであるべきと思っている。

観光資源の開発、環境ビジネスや体験滞在型宿泊メニユー

の充実が必要と認めているが、現在幡多観光広域協議会では、子供農山漁村交流プロジェクトを計画し、受け入れ体制の整備をしている。

また国が推進する観光県整

備事業の活用により、幡多地域アクションプランとして二泊三日以上の滞在体験型観光の推進に取り組んでおり、黒潮町も協力しながら推進したいと考えている。



菜の花まつり（北郷小学校跡にて）